

農業生産構造の目標等

本県農業が持続的に発展できる農業構造へと転換するため、地域の「担い手」を明確にし、農業者の企業的な経営手法の導入や地域農業を支える組織経営体の発展を促進するとともに、農地の利用集積や地域からの雇用による経営規模の拡大等を進め、夢に向かって農業生産に取り組む意欲ある農業経営体や組織経営体の育成を図ります。

また、農業者が自信と誇りを持てる農畜産物の生産と所得向上を進めるため、マーケティングに基づく戦略的な生産と販路の拡大として、県オリジナル品種など有望品種・品目の生産や契約取引・直販の拡大、6次産業化や産業間の連携を推進するとともに、自然の力を活かした環境農業への取組を推進します。

1 農業・農村の展望

区分	単位	H17年 (実績)	H22年 (実績)	H29年 (見通し)	H29/H17	H29/H22	
総 農 家	戸	126,857	117,316	109,000	85.9%	92.9%	
農 業 経 営 体	経営体	77,304	64,289	51,000	66.0%	79.3%	
農 業 就 業 人 口	人	130,823	100,244	66,000	50.4%	65.8%	
基幹的農業従事者	人	88,666	83,247	64,000	72.2%	76.9%	
販 売 農 家	戸	74,719	62,076	48,000	64.2%	77.3%	
自 給 的 農 家	戸	52,138	55,240	61,000	117.0%	110.4%	
耕 地 面 積	ha	113,600	111,200	109,000	96.0%	98.0%	
	田	ha	57,600	55,400	53,000	92.0%	95.7%
	普 通 畑	ha	35,200	36,300	37,000	105.1%	101.9%
	樹 園 地	ha	17,100	16,200	15,000	87.7%	92.6%
	牧 草 地	ha	3,570	3,350	3,000	84.0%	89.6%
耕 地 利 用 率	ha	89	87	88	98.1%	101.2%	
ほ場整備率* (水田)	%	50	51	55	110.0%	107.8%	
ほ場整備率* (畑)	%	26	26	26	100.0%	100.0%	
畑地かんがい率	%	26	26	26	100.0%	100.0%	

※整備済みほ場の区画が20a以上の整備率

2 農業生産構造目標

(1) 本県農業の主力となる担い手

農村ばかりでなく、県全体、国全体で少子高齢化が進む中では、農家や農業従事者の減少を止めることは困難です。

このため、認定農業者等の確保・育成の強化、集落営農組織の設立支援、新規就農者の本県への誘致等を進め、担い手経営体の本県農業の主力となる構造を創ります。

また、産地や農産物直売所を支える中小規模の農家の生産力や経営力を高め、本県農業の担い手となる経営体への誘導を進めます。

- 認定農業者の経営力・技術力を高め基本構想水準達成者にします。
- 担い手候補の経営力・技術力を高め認定農業者に誘導します。
- 集落営農組織の法人化により認定農業者へと誘導します。
- 中山間地を中心に新たな集落営農組織の設立を進めます。
- 新規就農者を誘致・確保し、技術力・経営力を高め、認定農業者に誘導します。

(2) 担い手への農地利用の集積

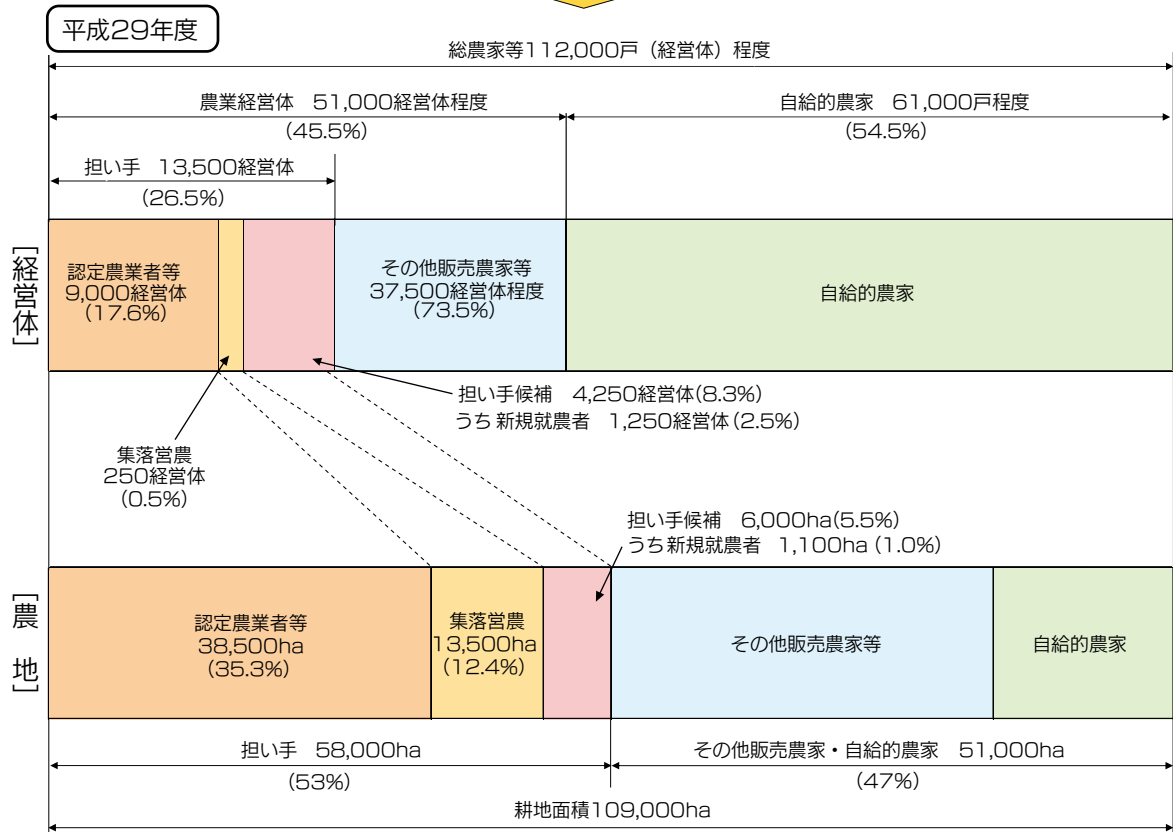
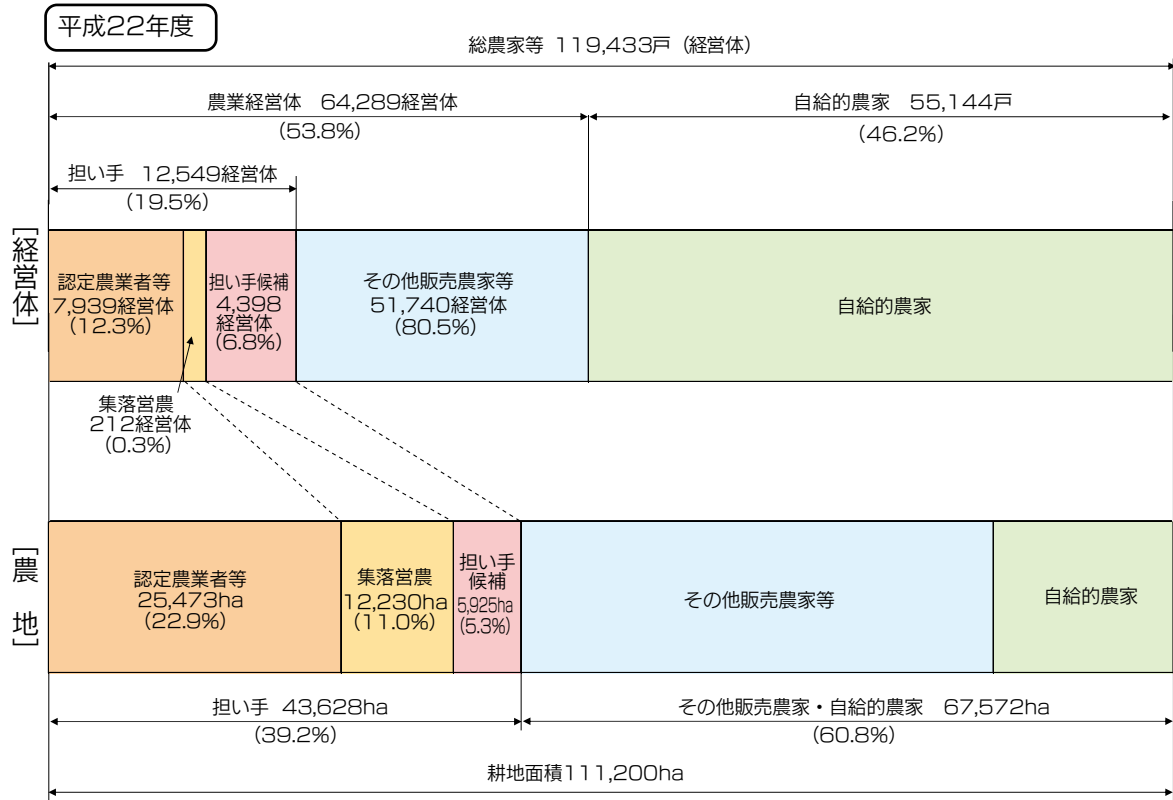
高齢化に伴い耕作が困難となる農地は増加しますが、遊休農地の発生防止や再生活用に取り組み、農地の減少を最小限にとどめます。

また、農地中間管理事業等により、認定農業者等の担い手を中心に経営規模の拡大を促進するとともに、新規就農者や新たに設立する集落営農組織等により、農地の効率的な活用を進めます。

なお、産地や農産物直売所等を構成する販売農家についても、継続した農地利用と規模拡大への取組を促進するとともに、本県の農家数の半数を占める自給的農家は、農地や農村資源の維持に重要な役割を担っていることから、現在の規模を維持しつつ、産地や農産物直売所への参加などを促し、継続的な農地利用を維持します。

- 人・農地プランの作成推進等により構想水準達成者と認定農業者の経営規模拡大を進めます。
- 農地中間管理事業等により、担い手への農地集積・集約化を進めます。
- 担い手候補を認定農業者に誘導し耕作面積を拡大します。
- 新たに集落営農組織を設立し農地の効率的利用を進めます。

[平成 29 年度に目標とする農業生産構造イメージ]



※認定農業者等数は、認定農業者と基本構想水準到達者の合計値
 ※[経営体]の認定農業者等の下段の()は、農業経営体に占める比率
 ※担い手農業経営体以外の面積は、農林業センサスから推計
 ※新規就農者は、40歳未満の新規就農者

(3) 食と農業・農村の経済努力指標

【農業農村総生産額】

区分	平成22年	平成29年(目標)
農業農村総生産額	2,908億円	3,050億円
農産物産出額	2,738億円	2,800億円
農業関連産出額	170億円	250億円

ア 農畜産物の生産と農産物産出額

作付面積、生産量は減少傾向にあります。農業構造の転換を促進するとともに、担い手や産地を構成する多くの農業者の需要を把握した上での生産、新技術・新品種の導入、低コスト栽培、新たなマーケティング戦略に基づく販路開拓などを、関係団体と一体となって支援します。

(ア) 作目別の振興方針

区分	方針
米	<ul style="list-style-type: none"> 信州の環境にやさしい農産物認証制度、エコファーマー認定制度の活用を促進し、環境にやさしい米づくりを推進 中晩生品種「キヌヒカリ」から、食味や品質が高い県オリジナル品種「風さやか」への転換 疎植栽培、直播栽培など低コスト栽培技術の普及や、共同利用施設の利用拡大などによる低コスト生産を推進
麦	<ul style="list-style-type: none"> パン・中華麺用需要に対応した小麦「ゆめかおり」、「ハナマンテン」の導入を推進 土づくりや、排水対策の徹底のための耕うん同時畝立て播種技術導入等による収量・品質の向上
大豆	<ul style="list-style-type: none"> 「タチナガハ」から豆腐加工適性の高い「すずほまれ」への転換 納豆加工適性の高い「すずろまん」の普及 土づくりや、排水対策の徹底のための耕うん同時畝立て播種技術導入等による収量・品質の向上
そば	<ul style="list-style-type: none"> 県育成新品種「長野S8号」について、産地を特定しつつ導入推進 土づくりや、排水対策の徹底のための耕うん同時畝立て播種技術導入等による収量・品質の向上
りんご	<ul style="list-style-type: none"> 省力で収益性の高いりんご新しい化栽培への早急な転換 「シナノスイート」「シナノゴールド」等実需者評価の高い県オリジナル品種の導入及び出荷期間の長期化 「ふじ」等基幹品種の安定生産と商品性向上
ぶどう	<ul style="list-style-type: none"> 市場評価が高く、ぶどう生産者の作付意欲も高い「ナガノパープル」「シャインマスカット」の生産拡大 「巨峰」の安定生産と無核栽培の拡大 平行整枝短梢せん定栽培技術の普及 ワイナリーとの連携によるワイン用ぶどうの拡大
なし	<ul style="list-style-type: none"> 「二十世紀」から「南水」への品種転換と面積拡大 県オリジナル品種「サザンスイート」の早期産地化
もも	<ul style="list-style-type: none"> 高糖度品種のシリーズ化 疎植低樹高仕立て栽培の検討 改植による樹園地の若返り
レタス	<ul style="list-style-type: none"> 高温・降雨に強い品種の選定と栽培技術の普及 県内産地リレーの強化と出荷期間の拡大 レタス根腐病等の難防除病害対策の徹底
はくさい	<ul style="list-style-type: none"> 需要に見合った適正生産・適正出荷 需要減退期の7～8月の他品目への積極的な転換

キャベツ	<ul style="list-style-type: none"> ・はくさいの転換品目としての推進 ・食味が良く歩留まりの高い品種の選定と普及 ・加工業務用の多収穫栽培体系の確立と契約栽培の拡大
ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> ・高温期の安定生産技術の普及 ・鮮度保持対策の徹底 ・移植機の導入等による省力化の推進
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> ・需要期の生産拡大につながる単収向上技術の普及及び施設化の推進 ・1年養成苗供給体制による新たな産地の育成
トマト	<ul style="list-style-type: none"> ・水稻育苗施設を活用した新たな栽培法の普及による面積拡大 ・高温期の栽培改善技術指導による単収と品質向上 ・集落営農組織等への推進によるジュース用トマトの栽培面積確保
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> ・養液土耕栽培等の省力化技術の導入による面積拡大 ・夏秋作型の生産安定による単収の向上 ・新規栽培者の確保・育成
キク	<ul style="list-style-type: none"> ・省力化による規模拡大 ・小ギクの生産拡大 ・量販店向けの用途別生産の推進
カーネーション	<ul style="list-style-type: none"> ・秋期切り作型の生産拡大 ・需要に合わせた配色バランスと作型設定 ・日持ち性の高い切花品質の確保
リンドウ	<ul style="list-style-type: none"> ・量販店向けのパック花対応品種の導入 ・オリジナル品種の生産拡大 ・水田転作品目としての作付拡大、新たな産地の育成
トルコギキョウ	<ul style="list-style-type: none"> ・需要の高い秋期（10月～11月）出荷作型の生産拡大 ・県内オリジナル品種の作付推進 ・共同育苗、委託育苗等による優良種苗の安定供給
アルストロメリア	<ul style="list-style-type: none"> ・周年出荷体系による生産量の拡大 ・地中冷却栽培の積極的導入 ・鮮度保持対策の実施による品質確保
シクラメン	<ul style="list-style-type: none"> ・小鉢化に対応した低コスト大量生産技術の確立 ・新品种の積極的な導入 ・規模拡大の推進
えのきたけ	<ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通コストの低減 ・「長菌17号」の導入・普及
ぶなしめじ	<ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通コスト低減 ・高生産性培地の導入
乳用牛	<ul style="list-style-type: none"> ・牛群ドック事業を組み合わせた高品質生乳生産の推進 ・自給飼料の生産拡大による経営安定 ・乳房炎等の対策による乳質改善 ・初産等での和子牛生産及び雌だけ受精卵の活用
肉用牛	<ul style="list-style-type: none"> ・受精卵移植の強化 ・「栄寿」等の活用による信州プレミアム牛肉の増産 ・育種価の活用によるスペシャル繁殖牛の増産 ・自給飼料の活用による低コスト生産の推進
豚	<ul style="list-style-type: none"> ・飼料用米・食品循環資源利用飼料を使用した付加価値（オレイン酸・環境に配慮）の高い豚肉の生産 ・希少価値の品種を活用した個性的な肉豚生産 ・子豚育成期の疾病対策の徹底で低コスト生産の推進
鶏	<ul style="list-style-type: none"> ・高病原性鳥インフルエンザの進入防止の徹底 ・ヒナの育成管理の徹底で信州黄金シャモの低コスト生産 ・暑熱対策の徹底で高品質な鶏卵生産

(イ) 農産物産出額の努力指標

区分	平成22年基準 (2010年)				平成29年目標 (2017年)				H29/H22 (%)			
	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	産出額 (億円)	作付面積 (ha)	単収 (kg/10a)	生産量 (t)	産出額 (億円)	作付面積	単収	生産量	産出額
米 穀 類	42,340	-	224,770	446	42,950	-	229,628	494	101	-	102	111
米	34,600	612	211,800	428	33,600	623	209,328	473	97	102	99	111
麦	2,410	303	7,310	5	2,850	410	11,700	5	118	135	160	109
大豆	2,370	145	3,440	5	2,500	200	5,000	7	105	138	145	146
そば	2,960	75	2,220	8	4,000	90	3,600	9	135	120	162	108
果 樹	15,400	-	220,200	485	14,920	-	244,100	490	97	-	111	101
りんご	8,180	1,771	144,900	244	7,810	2,074	162,000	259	95	117	112	106
ぶどう	2,440	980	23,900	111	2,450	1,094	26,800	110	100	112	112	99
なし	1,030	1,825	18,800	51	920	2,011	18,500	41	89	110	98	81
もも	1,200	1,400	16,800	43	1,110	1,604	17,800	42	93	115	106	98
その他果樹	2,550	620	15,800	36	2,630	722	19,000	38	103	117	120	105
野 菜	24,897	-	615,007	801	23,600	-	630,000	790	95	-	102	99
レタス	5,790	2,961	171,400	215	5,910	3,146	187,000	206	102	106	109	96
はくさい	2,750	7,452	202,700	130	2,500	7,400	185,000	101	91	99	91	78
キャベツ	1,470	4,033	59,300	45	1,600	4,500	72,000	47	109	112	121	105
ブロッコリー	815	930	7,050	21	850	953	8,100	25	104	102	115	120
アスパラガス	1,300	248	3,450	26	1,400	430	5,600	43	108	173	162	163
トマト	438	4,940	22,200	28	450	6,222	28,000	31	103	126	126	112
きゅうり	425	3,829	16,200	32	430	4,418	19,000	37	101	115	117	116
その他野菜	11,909	1,114	132,707	305	10,460	1,198	125,300	300	88	108	94	99
花 き	749	-	199,000千本 21,010千鉢	161	722	-	199,200千本 18,700千鉢	160	96	-	100 89	100
キク	138	26,304	36,300千本	20	111	27,297	30,300千本	16	80	104	83	81
カーネーション	96	64,760	62,300千本	28	88	68,182	60,000千本	28	92	105	96	100
リンドウ	39	19,115	7,493千本	3	38	20,263	7,700千本	3	97	106	103	94
トルコギキョウ	51	26,336	13,300千本	11	58	25,345	14,700千本	16	114	96	111	142
アルストロメリア	25	72,510	18,200千本	12	28	78,571	22,000千本	15	112	108	121	128
シクラメン	20	13,861	2,800千鉢	13	17	14,118	2,400千鉢	11	85	102	86	88
その他花き	31367	-	61,407千本 18,210千鉢	74	322 60	-	65,500千本 16,300千鉢	71	10,390	-	10,590	96
きのこ			154,741	495			172,864	490			112	99
えのきたけ	-	-	86,070	193	-	-	94,426	203	-	-	110	105
ぶなしめじ	-	-	47,868	203	-	-	55,746	195	-	-	116	96
その他きのこ	-	-	20,803	99	-	-	22,692	92	-	-	109	93
その他	-	-	-	63	-	-	-	72	-	-	-	114
畜 産		飼養頭羽数 (頭、千羽)	生産量 (t)	産出額 (億円)		飼養頭羽数 (頭、千羽)	生産量 (t)	産出額 (億円)		飼養頭羽数	生産量	産出額
畜産		124,300頭 1,403千羽	150,627	288		123,600頭 1,375千羽	149,499	305		99 98	99	106
乳用牛		19,800頭	116,345	117		19,200頭	117,400	125		97	101	107
肉用牛		29,500頭	7,064	72		28,500頭	6,552	88		97	93	122
豚		75,000頭	11,518	49		75,900頭	11,530	50		101	100	103
鶏		1,403千羽	15,700	45		1,375千羽	14,017	34		98	89	76
その他畜産		-	-	6		-	-	8		-	-	145
農産物産出額計				2,738				2,800				102

※ラウンド統計のため合計と内訳が一致しない場合があります

イ 農業関連産出額

他産業との連携や6次産業化の推進による新たな農産加工品の開発、加工技術の向上、新たなマーケティング戦略に基づく「おいしい信州ふード(風土)」の推進による販路拡大、都市部住民のふるさと回帰志向の高まりに応える農村コミュニティ活動の強化等を進める施策を展開し、平成29年の農業関連産出額の目標を250億円とします。

(ア) 農業関連産出額の努力指標

区 分	平成22年	平成29年 (目標)	H29/H22
農 業 関 連 産 出 額	170億円	250億円	147%
水 産	55億円	57億円	104%
農 産 加 工	55億円	108億円	196%
観 光 農 業	60億円	85億円	142%